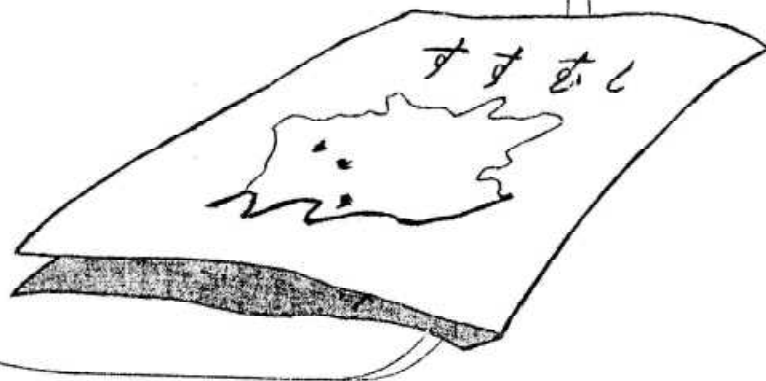
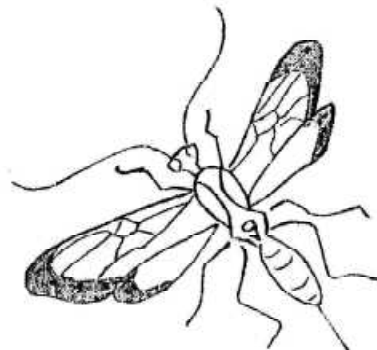


# すすむし

Vol. 8 No. 2



倉敷昆虫同好会

No. v. 1958

## 目 次

表紙デザイン—————近藤光宏

伯耆大山の昆虫相 I

INSECT-FAUNA OF MT. TAISEN, WESTERN JAPAN

——佐藤清明——7

### 採集メモ

新見市西川流域—————青野孝昭——5

上石見・足立間—————青野孝昭——6

柳井原—————青野孝昭——7

三室・足立間—————青野孝昭——7

大佐山付近—————8

本会宛新着寄贈誌—————9

### おとしぶみ

シラホシテントウとシロホシテントウの記録—————小野洋——10

小豆島でクロツバメ採集—————赤枝一弘——10

会 だ よ り—————11

編 集 後 記—————11

## 伯耆大山の昆虫相 I

( INSECT-FAUNA OF MT. DAISEN, WESTERN JAPAN )

岡山清心女子大学 佐藤清明

( S. Satô; The NOTre Dame Seishin College )

(May 1951)

## 【前 言】

この研究は昭和26年に文部省の奨励金補助を貰つて行つたもので、伯耆大山の昆虫研究を総括した企てであつた。今回、青野孝昭氏のおすすめて要約を連載することにした。当時から数年を経過しておるので若干の加筆をした。

## 【伯耆大山に於ける昆虫研究の歴史】

伯耆大山に昆虫採集を企てた最初の人はいづれも箕浦忠愛氏(京都府立医大教授)である。氏は少年時代から大山に登つて蝶類の豊富なのに注目し、明治36、7年頃(1903~1904)はもつとも盛に蝶を採集した。当時松村松年博士は富士山の昆虫相を熱心に研究してその特異な分布につき発表された(明治43年 1910)が、勢のおもむくところ遂に大挙して大山を目ざして来り大正11年(1922)8月、大正14年(1925)8月と数次に亘つて主として鱗翅類を採集し、たちまちダイセンシヤチホコ(*Drymonia daisensis*)ダイセンギンボシカレヘ(*Eriogaster daisensis*)、ダイセンセダカモクメ(*Cucullia daisensis*)、ダイセンアトスカン(*paranthe daisensis*)、ダイセンミスメイガ(*Epimimna daisensis*)、ダイセンゴマシジミ(*Maculinea teleius daisensis*)等の新特産種が出て、昆虫相の豊富なること関西随一の折紙がついたのであつた。次で昭和8年(1933)7月、内田清之助博士が登山してミドリシジミ族の詳査をされるに及んでジョウザンミドリシジミ、エゾミドリシジミ以下のおびただしい珍種の存在が明かになつて斯界の人々は驚異の目をみはつたのであつた。

爾來、地元にあつては生駒義博、山本茂信の両氏が熱心に研究せられ、また杉谷岩彦、大林一夫、野村健一、石原保、中林馮次等の名採集家が前後して大山の昆虫相解明に力をそそがれ、続々と珍種を得た。私は昭和10年頃(1935)から大山に注目し、岡山博物趣味の会を起して、会員黒田祐一、平田信夫、好本精、栗原稔茂、星野柘也、長田昭三の諸氏と共に毎年大山に採集を続けて来た。昭和20年(1945)秋倉敷に於て岡山博物同好会を起すようになり、深谷昌次、小泉憲次、小阪和彦、中塚憲司、小野洋、青野孝昭、西田公一、重井博、山根知之、山川東平等の会員諸氏と昭和21年7月戦後再開の採集を大山に行ひ菅田旅館に同好会本部の出張所を設け、採集日誌を備付けてあらゆる採集同好家に公開し且つ採集記録を記入願ひ爾來10年間に亘つて集積につとめた。今日まで私の大山登山は約50回である。

## 【主要文献】

箕浦忠愛；大山短信 *Zephyrus* I, 774 (1929), 小林櫻三；伯耆大山七月の蝶 *Zephyrus* III, 86 (1931), 森久保誠；大山採集記 昆蟲界II, 692 (1934) 小林馮次；国立公園大山採集記 昆蟲界XLI, 24-XL, 442 (1935), 高橋寿郎；伯耆大山甲虫採集録 昆蟲世界XL, 361 (1935), 祐原太郎；伯耆大山の昆虫採集 昆蟲界III, 885 (1936), 野村健一、山本茂信、猪股修二郎；伯耆大山六七月の蝶 *Zephyrus* V, 146, 335, (1937), 荒木東次；伯耆大山甲虫二珍種 昆蟲VII, 274 (1932), 中条道夫；伯耆大山の金花虫類 新昆蟲VI, 13, 24 (1954), 佐藤清明；伯耆大山昆虫採集目録 岡山博物同好会会報第4付録 (1946) 佐藤清明；中国四国地区に於ける昆虫研究 昆虫学会中国四国地区大会講演 (1949) 付、文献表、佐藤清明；天覧昆虫標本解説 パンフレット (1948)

【後記】 ずむし誌上で関係の文献は次のようである。

古屋野寛；大山カミキリ新産地I-2, p. 75 小野洋；伯耆大山のミンギリゾウ、ナガタムシ、ベニヒラタムシIII-8, 104, 船越俊平；大山にゴーラムオオキノコムシIII-1, 6 小野洋；伯耆大山にキイロセマルケシキスイIII-2, 16, 青野孝昭；採集メモー伯耆大山VIII-3, 55

## 【分布の外観】

伯耆大山は鳥取県西伯郡に在つて中国一の高峰で海拔1731m、大山火山脈の主峰である。その形は実に美事なトロイデで、これはオ三期に噴出したと推定され、全山ほとんど角閃安山岩より成つておる。10月下旬から降雪、3月中旬まで雪がある。山頂の年平均気温は4℃で、夏の最高気温は20℃、冬の最低気温は-9℃に及ぶ。

植物分布極めて特異で、多くの高山植物と大山特有の植物がある。従つて昆虫分布も亦特異である。本研究の結果、下の如く要約する。注(1)

## 1. 大山の特産種

- |   |                  |
|---|------------------|
| (1) <i>Drymonia daisensis</i> MATS.             | ダイセンシヤチホコ        |
| (2) <i>Eriogaster daisensis</i> MATS.           | ダイセンギンボシカレハ      |
| (3) <i>Cucullia daisensis</i> MATS.             | ダイセンセダカモクメ       |
| (4) <i>Paranthrene daisensis</i> SHIBUYA.       | ダイセンアトスカシ        |
| (5) <i>Epiminia daisensis</i> MATS.             | ダイセンミズメイガ (新称)   |
| (6) <i>Coraeus daisensis</i> MIWA.              | ダイセンタマムシ         |
| (7) <i>Galena daisensis</i> MATSUSHITA.         | ダイセンカミキリ         |
| (8) <i>Gunus daisensis</i> TAKAHASHI.           | ダイセンヤマブユ         |
| (9) <i>Maculinea teleius daisensis</i> MATS.    | ダイセンゴマシジミ        |
| (10) <i>Plebejus argus hokiensis</i> KOBAYASHI. | ホウキンシジミ          |
| (11) <i>Wagimo signata quencivora</i> STAND.    | ダイセンシジミ          |
| (12) <i>Daimio tethys daisensis</i> RILEY.      | ダイセンダイミヨウセリ (新称) |
| (13) <i>Olbiogaster yamamotoi</i> OKADA.        | ヤマモトオオカバエ        |

- (14) *Platyloptilon satoi* KOIDZ. サトウクシヒゲキノコバエ  
 (15) *Rhachicerus osadai* KOIDZ. オサダクシヒゲアブ

## 2. 特種昆虫の著名産地

- (1) *Tritoma solivaga* LEWIS. アカボシオオチビキノコ  
 (2) *Nycydalis galloisi* MATS & TAMANUK. ガロアホソ コバネカミキリ  
 (3) *Nycydalis nikkoensis* M. & T. ニツコウホソカミキリ  
 (4) *Strangalia ohbayashii* MATSUSHITA. オオバヤシハナカミキリ  
 (5) *Strangaliomorpha nymphula* BAT. ニンフハナカミキリ  
 (6) *Osoderma opicum* LEW. オオチヤイロハナムグリ  
 (7) *Tipula turbida* ALEX. コカスリガガンボ  
 (8) *Quercusia fujisanus* MATS. フジミドリシジミ  
 (9) *Iratsume orsedise* BUTL. ウラク ロシジミ  
 (10) *Angiades sylvanus* ESP. コキマダラセセリ  
 (11) *Takadonta takamukai* MATS. タカムクシヤチホコ  
 (12) *Rhyacia takamukai* MATS. タカムクヤガ  
 (13) *Oreodes japonica* MATS. ヤマトタヨク  
 (14) *Eremus testaceus* SHIRAKI. ハネナシコロギス

## 3. 高山昆虫として著名なもの

- (1) *Zazaea triangularis* TAKEUCHI. フトオビコンボウハバチ  
 (2) *Cicindella sachalinensis* MOR. ミヤマハンミヨウ  
 (3) *Oedeniera maricata* LEW. キアシカミキリモドキ  
 (4) *Lamprosoma japonicum* JAC. ヒメドウガネサルハムシ  
 (5) *Eucyclops olivaceus* BAT. テツイロハナカミキリ  
 (6) *Strangalia contracta* BAT. ミヤマホソカミキリ  
 (7) *Apoderus praeceus* SHARP. ムツモンオトシブミ  
 (8) *Metasyrphus jesoensis* MAT. コブホシヒラタアブ  
 (9) *Syrphus corolla* FAB. フタホシヒラタアブ  
 (10) *Strymon merus* JANSON. ミヤマカラスシジミ  
 (11) *Strymon w-album* KNOCH. カラスシジミ  
 (12) *Deroca inconclusa* WK. ウスボシベツコウカギバ  
 (13) *Deroca phasma* BUTL. ホシベツコウカギバ  
 (14) *Sympetrum elatum* SELYS. ミヤマアカネ  
 (15) *Terponosia nigricesta* MOT. エゾハルゼミ  
 (16) *Peuceptyelus matsumurai* M. & H. コミヤマアワフキ

## 4. 北方系の昆虫 (多くは大山が分布の南限となる)

- (1) *Amblyteles niikunii* MATS. ニイタクニヒメバチ

(2) <i>Allantus sapporensis</i> MATS.	ツマグロハバナ
(3) <i>Pacderus parallelus</i> WEISE.	エゾアリガタハネカクシ
(4) <i>Philomthus cyanipennis</i> FAB.	ルリハネカクシ
(5) <i>Lucerodes praeustus</i> MOT.	カラフトクロウリハムシ
(6) <i>Ussuriana ibara</i> BUTL.	ウラキンシジミ
(7) <i>Favonius jezoensis</i> MAT.	エゾミドリシジミ
(8) <i>Favonius orientalis</i> MURRAY.	オオミドリシジミ
(7) <i>Favonius saphirinus</i> STAND.	ウラジロシドリシジミ
(10) <i>Favonius ultramarius</i> FIXEN.	シヨウザンシドリシジミ
(11) <i>Chrysozephyrus aurorinus</i> OBER.	アイノミドリシジミ
(12) <i>Tipula taikum</i> ALEX.	ウススジガガンボ
(13) <i>Tabanus sapporensis</i> SHIR.	キンイロアブ
(14) <i>Tibicen bihamata</i> MOT.	コエゾゼミ
(15) <i>Tibicen flammata</i> DIST.	アカエゾゼミ
(16) <i>Tibicen japonicus</i> KATO.	エゾゼミ
(17) <i>Eparchus yezoensis</i> MATS. & SHIR.	エゾハサミムシ
(18) <i>Episcapha gorhami</i> LEWIS.	ゴーラムオオキノコムシ

## 5. 南方系の昆虫 (多くは大山が分布の北限となる)

(1) <i>Metopius hakiensis</i> MATS.	ハキマルヒメバチ
(2) <i>Lucernna discicollis</i> KIES.	オオオバホタル
(3) <i>Graphium sarpedon</i> L.	アオスジアゲハ
(4) <i>Papilio helenus</i> L.	モンキアゲハ
(5) <i>Caduga sita</i> KOLL.	アサギマダラ
(6) <i>Panorpa takenouchii</i> MIYAKE.	タケウチシリアゲ
(7) <i>Poecilocooris lewisi</i> DIST.	アカスジキンカメムシ
(8) <i>Isotoma japonicus</i> MATS & SHIR.	ホソクビツユムシ
(7) <i>Choaspes benjaminii</i> GUER.	アオバセセリ
(10) <i>Limnophila formosana</i> ALEX.	ヒメカスリガガンボ

## 6. 大陸系の昆虫

(1) <i>Boarmia appositaria</i> LEECH	テヨウセンウスグロエダシヤク
(2) <i>Coenonympha oedippus</i> FAB.	ヒメヒカゲ
(3) <i>Melitaea protomedia</i> MEN.	ウスイロヒヨウモンモドキ
(4) <i>Antigius attilia</i> BREMER.	ミズイロオナガシジミ
(5) <i>Chrysozephyrus smaragdinus</i> BREMER.	メスアカミドリシジミ
(6) <i>Artopoetes pryeri</i> MURRAY.	ウラボマダラシジミ

## 7. 中国地方特産種

(1) <i>Spindasis takanonis takanonis</i> MATS.	キマダラルリツバメ
--	-----------

(2) *Maculinca teleius daisensis* MATS. ダイセンゴマンジミ

(注) 参考

国立公園大山 鳥取県発行 昭和7年  
 Y. IKOMA; a Phytogeographical Survey of Mt. Daisen  
 Liberal Arts Journal Ⅷ / p.32 1950  
 大山 (国立公園シリーズ6) 国立公園協会 昭和7年)  
 大山 毎日新聞社編 昭和33年

## 採 集 メ モ

新見市西川流域

青野孝昭

1958年5月25日、倉敷昆虫同好会1958年度才1会採集会に参加、新緑の阿哲峯を歩いてみる。参加者は総勢10名、小野洋、安東瑞夫、近藤光宏、近藤、風早知之、河辺誠一郎、前田喜四雄、東一夫、古屋野寛の諸氏。ただし古屋野氏は植物調査が目的であり、最近は植物の生態写真撮影に力をそそがれている。伯備線を一番列車で北上した一行は午前7時36分、備中神代駅で下車、薄ら寒い山間の朝を肌感じながら採集の装備をととのえる。ここから布原までは県道を南下。途中、アサギマダラやキマダラヒカゲを見送つたり、馬糞からオオフタホシマダラソコガネやセンチコガネ等を掘り出す程度で大した収穫もなく伯備線布原駅上方に達して道を分ち、小道伝いに斜面を降つて西川川床へと進む。この斜面では期待していたウスバシロチョウが姿を現わし、この日の採集行に精彩をそえた。先頭を進んでいた中学生連が樹木伐採地のやや開けた地点で、走り廻つているので何事かと尋ねてみるとウスバシロが出たとのことだつた。しかし採集されたのは1羽のみで前田君の手中に収まつていた。直ぐ下の竹藪のわきにはムラサキケマンの群落が発見され、ウスバシロがこの付近に生息していることは間違いなく確認された。古くは1930年の岡山県生物目録の新見に於ける記録、新しくは1939年の平田信夫氏による岡山県産蝶類目録の新見に於ける記録以来のもので、28年或は19年振りの記録となる。

西川の木橋を渡り、伯備線を越え、あとは西川沿いに小道がのびて植物の豊富な山と川が続く。雲の多かつた天気もこの頃から次第に快方に向い、木陰でとつた昼食も楽しいものとなつた。小野氏と安東氏はビーティングネットを拵けて甲虫を主として追求、他は蝶を主目的としているように見受けられたが、弁当のあとで見せあつた収穫物は、見かけによらず、種々雑多であつた。

昼食後再び出発、途中で道を迷つたりしながら、西川の流れに沿つて進み、河本に達する。このあたりから、低山地性の蝶が目立つようになる。ダイミョウセセリ、アオバセセリ、サカハチチョウ、トラフジミ等。しかし、この谷すじは、杉の植林が多いせい、蝶の個体数は一般に少なく、また、ブナ科の植物が殆んど認められなかつた点から、ミドリジミ類の多くを期待することも、一部の昆虫の多産を期待することも望み薄すのように思われ、コースの長さと比較して、能率的な採集コースとは言えないようだ。コースの終り頃を急行し、石蟹発16時22分の岡山行列車にやつと間に合う。

参考までにこの日、採集したり、見ることの出来た蝶を記録しておく。

ダイミヨウセセリ、アオバセセリ(目)、ヒメキマダラセセリ、コチヤバネセセリ、ウスバシロチヨウ(布原にて前田探)、アオスジアゲハ、アゲハ、オナガアゲハ、クロアゲハ、カラスアゲハキチヨウ、モンキチヨウ、モンシロチヨウ、スジグロシロチヨウ、トラフシジミ、ベニシジミ、ルリシジミ、ツバメシジミ、テングチヨウ、アサギマダラ(備中神代駅付近にて目撃)、クモガタヒヨウモン、イチモンジチヨウ、コムスジ、サカハチチヨウ、アカタテハ、ヒメウラナミジャノメ、クロヒカゲ、キマダラヒカゲ、コジヤノメ、以上29種。

なお筆者の採集品の中から種名のおかつた蛾と甲虫も参考までに記しておく。

ヒトスジマダラエダシヤク、シロホソオビクロナミシヤク、フタホソシロエダシヤク、アゲヘモドキ、

ヤコンオサムシ、ヤホソゴミムシ、ジエウジアトキリゴミムシ、クルミハムシ、グワハムシ、トビサルハムシ、アカガネサルハムシ、オオフタホシマダソコガネ、ヒメトラハナムグリ、アオハナムグリ、アカハネムシ、ヒゲブトゴミムシダマシ、ジョウカイボン、マルムネシヨウカイ、クビボソシヨウカイ、ヒメシヨウカイ、モモドロハナカミキリ、オオヒメハナカミキリ、ミドリカミキリ、ヘリドロベニカミキリ、ホタルカミキリ、リンゴコフキノウ。

## 上石見・足立間

青野孝昭

1955年6月8日。上石見—野原—新田—鷲尾—新郷—足立のコースを古屋野氏と同行。

天気悪く、伯備線上石見駅に下車した11時20分頃から雨となる。雨をついて、野原スキー場へと出発、ゆるい斜面を登って行くが、このあたりはまだ鳥取県側、道ばたの割木からアトモンサビカミキリをつまみあげる。ふり返つてみると頂上に雲のかかった穴倉山(1112m)が優姿をみせる。道の両側に杉の人工林が育っているが、道べりには少数ながらナラガシワが自生している。ホソキリンゴカミキリ、モモドロハナカミキリを得る。

野原の無料休憩所にはテレビが備えつけられ、雨で仕事の手を休める杉苗栽培の女達がスクリーンにみとれている。農家の縁側を借り、小雨にけふる前方の山からしきりに聞えるホトトギスの声を聞きながら、ゆつくり昼食。野原はちよつとした原野でそのまま自然状態が温存されていたら美しい草原が展開し、あちこちにカシワ林も育つて、現在の姿とはまた違った様相を示していたらと思うのだが、今は傾斜のゆるい原野は殆んど開かれ、杉苗や、農作物が栽培されている。カシワは根跡的に残っているだけ。午後2時、雨のあがつたのをきつかけに出発する。モンシロチヨウ、コチヤバネセセリ、ツバメシジミ、ヒメウラナミジャノメ等の蝶をみる。新田の池に達する手前にはカササゲの群落があり、7月にはオオヒカゲの発生をみることだろう。かたわらのダイセンヤナギにヤナギルリハムシがアブラムシノ種と共に大発生しており、アブラムシを求めるテントウムシがまた多数集つている。新田の池の西側を通り、別れ道から東に進んで、鷲尾方面に向う。鷲尾の峠道にはヨナラが多い。Pidonia (Pseudopidonia) Sp. を花上より得る。新郷駅に着いたのが午後4時頃、曇天で蝶の収穫はないが終列車で帰ることにし、県道を更に南下、足立駅まで歩くことにする。その間、ガマズミの花上よりマツシタトラカミキリを得る。

この日は悪天候の為か蝶は全コース中、上記の外、ダイミヨウセセリ、ヒメジャノメ、キマダラ



ヒカゲと7種を認めたのみで淋しいかぎりだった。甲虫では上記の外、ヤホンゴミムシ、イチモンジカメノコヘムシ、フジヘムシ、クロウリヘムシ、クワヘムシ、パラルリヘムシ、ヨモギヘムシ、キベリトゲトゲ、ヒメヘナムグリ、ススイロビロウドコガネ、ジョウカイボン、クビボンジョウカイ、カフオゾウムシ、ヒメクロオトシブミ等を得ていた。

## 柳 井 原

青 野 孝 昭

1958年6月15日、晴。古屋野氏と同行。県南の浅口郡船場町柳井原方面を探ることにする。8時45分、倉敷駅前発の両備バスに乗り、倉敷レイオン西口で下車、高梁川を舟で渡る。舟から下りると州続きに開墾地が山の裾まで拡がり、麦刈りに精を出す人々が多勢立働いている。モンシロチョウが多数飛び交う。小道を北西に進み山の麓にたどり着く。この山は標高1387m、高梁川の流れを大きく腕曲させている島状の孤立した山で、南半分は花崗岩地帯だが、北側には古生層があらわれている。山を南から北へ越えることにする。アラカンの葉上でムラサキシジミを得る。赤松を主とする南側は赤土の乾燥した肌を多く見せる。トネリコがわずかにあるがウキンシジミが棲みつくには少な過ぎるようだ。オバタマムシが飛ぶ。間もなく峠に出、北側をくだる。北側には広葉樹が多い。大きなシロスジカミキリがいる。山麓に竹藪があり、周囲のカラムシには多数のラミーカミキリが観察される。小田川堤防に出て柳井原桜の名所に通ずる道を南下する。道の北側斜面にはアベマキ、コナラが多く、ウラナミアカシジミ/♀、オオミドリシジミ/♂を得る。柳井原貯水池南端の堤防を東進、まだ午後1時前なので再び北上、今度は西側から、午前に越えてきた山にはいる。道なき道を進み、キマダラセセリ、チャパネセセリを得る。西酒津の倉敷レイオン西口に帰つたのが午後2時半頃だった。

## 三 室 ・ 足 立 間

青 野 孝 昭

岡山県の西北端、阿哲郡新郷町三室方面を探ることにする。コースは三室—上油野—下油野—重藤—足立と北から南へ下ることにする。

1958年6月22日、晴。小野洋、河辺誠一郎、古屋野寛氏と同行。足立駅発7時52分の備北バスで終着駅三室まで行く。三室着8時45分。三室は水田地帯で既に600m近くの標高をもつ県の避地だ。ススキ原、アベマキ林など点々と目立つ。先ずバス終点から少し登ってみる。道路沿いにはコミスジが最も普通で、イチモンジチョウ、クモガタヒヨウモン、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、キチョウ、モンキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、クロヒカゲ等も活動、ウツギの花にはヒオドシチョウ、キタテハが飛来し、クロハナカミキリが乗っていたりする。

三室の小学校の南側に738.6mの標高をもつかなりの山があるので一人はいつてみる。大きな樹木がうつそうとしているが、少し行くと伐採地が現われ、そこに出来たオ二次草原にはウラギンヒヨウモンが多数、低く弱々しく飛び、ヒメキマダラセセリが活発に飛び廻っている。更に樹林中を進むうちヒメキマダラヒカゲを2回目撃、1頭を得る。クロヒカゲも飛んでいる。この山中でシ

ラケトラカミキリ、アトモンサビカミキリを得る。昼食は一人山中ですませ、12時下山、バス道路に沿って足立まで歩くことにする。上油野付近でスジボソヤマキチヨウ / ♂、ウラゴマダラシジミ / ♀、メスグロヒヨウモン 2 ♂、オオチャパネセセリ / ♂ X を採る。ところどころ急斜面から水がしたたり落ちているが、この付近は水が非常にきれいで冷たく、そしてうまい。喉をうるおすのにもつてこいだ。こういう湿地が次々と現われるが、そこにはたいていテンダチヨウが集っている。アカシジミ、コチャパネセセリを見る。上油野と下油野の間あたりでオオミドリシジミ / ♂ 孫ナラガシワが近くにある。下油野を過ぎる頃、小野、河辺両氏が追いつき一緒になる。古屋野氏は植物の生態写真が目的で、重藤付近にも重点を置いているため、先きに帰っている。そこでまた、ウラゴマダラシジミ / ♀ を得、アゲハを見送る。

午後4時過ぎ、足立に着き、一休みした後、足立駅の東側山腹へ登ってみることにする。

そこで意外にもウラキンシジミを発見、各自 / ♂ ずつ採集、その他ここで、オオミドリシジミ、アカシジミ、スジボソヤマキチヨウが3人の手によつて採集された。なお、重藤ジエグリトラカミキリ / ♂ X を入手、また、道中、シロホシヒメゾウムシ、ウスモンオトシブミ、フアウストハマキチヨウキリ等を得ていた。足立駅発午後5時25分の上り列車で帰る。

## 大佐山付近

青野孝昭

小阪部—大佐山—摺臼原—青地—奥谷—小南—田治部

1958年6月24日、暗。単独行。阿哲郡大佐町の大佐山山麓をめぐる、青地から吉野河内を通り、姫新線岩山駅へ帰るコースがこの日の予定だった。ところが、姫新線小阪部駅へ午前8時に下車した筆者は、大佐山(9884m)を目のあたり見て、頂上まで登らずにおれなくなった。土地の人に登山道を聞き、とにかく登ることにする。東側からゆるやかなスロープを進む。あたり一帯は広い草原となり、冬はスキーでにぎわうらしい。この草原にはウラギンヒヨウモンが圧倒的に多く、モンキチヨウも少なからずいる。標高700m位から急坂となり、カシワが出現する。カシワはあまり大きくないのでハヤシミドリシジミでもいれば、採集には好都合だろうが今は何もない。木が小さいので木陰にはいるというわけにもいかず、非常に暑い。眺望は登るにつれて増々よくなる。

頂上に無線ロボット雨量測候所が作られている。北側はるか向うに伯耆大山の頂上のがぞき、蒜山連座がその東に見える。大佐山山頂は草原が拡がり、一部をカシワ林が占める。頂上でしばらく休憩、気持ちのよい風を受けながら、中国山脈の眺めを楽しむ。ここでオオミドリシジミ / ♂、ウラナミシジミ / ♂ を採り、キアゲハを頭を目標とする。軽い食事のあと、西側の斜面を降る。道はないが、樹木は伐採され、一面の荒地となつているので見晴らしがきき、迷うことはない。頂上の直ぐ下でナガゴマフカミキリを拾い上げる。

この斜面にもウラギンヒヨウモンがうんとおり、ヒメキマダラセセリ、ホシミスジも目につく。山麓近くでヒメヒカゲを / 頭得る。

山を降りたところは摺臼原だ。ここでヒオドシチヨウ、ヒメウラナミジャノメを目標、アカシジ

ミノ頭を採る。青地に向つて進むが、摺臼原から青地にかけてクリ林が非常に多く、クスサンの幼虫も馬鹿にならない程いる。青地では平凡な荒地が続き、いくら登つても様子がよくなる。遂に峠に出たが、人工林の杉が峠の向うにあるのに意欲を失い、引き返す。テングチョウ、クロヒカゲを見ているうちにヒメキマダラヒカゲを発見、ノ頭を採る。奥谷に通ずる谷をどんどん降る。その後この谷でヒメキマダラヒカゲを2頭手に入れたが、いずれも飛び古したもの。同じ谷でダイミョウセセリノ頭、クモガタヒョウモンノ♂、スジグロシロチョウノ♂、コチャバネセセリノ頭、キチヨウノ♂を得、藤の古木からナガゴマフカミキリ、ナカシロサピカミキリをつまみとる。奥谷では偶然出会ったハヤシンドリツジミノ♂新鮮品をネットにし、サカハチチョウ夏型ノ♂、ミドリヒョウモンノ♂、ルリツジミノ♂、メスグロヒョウモンノ♂、オオゴマダラエダシヤクノ頭、ホソキリンゴカミキリノ頭をとり、ツバメツジミ、ベニツジミ、コムシジを見る。

小南で県道に出たが、そこから田治部まで歩く。田治部駅付近の薪材に多数のアヤモントラカミキリとエグリトラカミキリが集つていた。

~~~~~

### ☆本会宛新着寄贈品☆

New Insect 2 (4, 5) P. 34: 1958 北信昆虫同好会

|                                                                                 |                                                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>理化学器械・光学器械<br/>度量衡・計量器・採集用具</p> <p>平田光学器械店</p> <p>岡山市中之町27<br/>電話 ② 5474</p> | <p>テ理 生物・地学標本模型<br/>  化 昆虫採集用具<br/>  フ 学<br/>  コ 器<br/>  タ 器<br/>  機 ทีวี・ラジオ・真空管<br/>島津製作所岡山県代理店</p> <p>サカエ商会</p> <p>倉敷市栄町(赤木病院西)電話 713</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

おとしぶみ

シラホシテントウと  
シロトホシテントウの記録

本年(1958年)8月7日、阿哲郡上刑部村大井野付近まで脚を伸ばし、<sup>かんきん</sup>雌山に登つたがその際 *Vibidia duodecimguttata* FODA シラホシテントウ/♂X. を採集した。少いものではないが、現在まで記録もほとんど見当らないので、一応新しい産地として報告する。

同じく本年(1958年)8月18日、広島県道後山の山の家付近で *Calvia decimguttata* LINNE シロトホシテントウ/♂X. を採集した。本種は本邦では北海道、本州、四国等に産することが知られているが、岡山県内などでは比較的個体数が少いようで現在までに報告さ

れていない、近隣県での一産地として報告しておく。

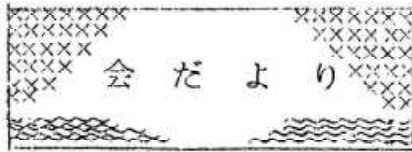
(小野洋)

小豆島でクロツバメ採集

昨年寒霞溪でツメレンゲの群落中に本種の卵殻らしいものを見たが食痕を見る事が出来なかつたので確認は出来なかつた。本年は場所は違うが小部の海水浴場で民家の屋上のツメレンゲに産卵している本種を見、内二頭を採集した。  
57 7 29

(赤枝一弘)

|                                                                             |                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| <p>昆虫・植物採集用具<br/>理化学器械<br/>岡山市西中山下<br/>(柳川交叉店東)<br/>永瀬教育堂<br/>電話 ㊤ 4725</p> | <p>新刊書籍・雑誌・文具<br/><br/>愛文社書店<br/><br/>倉敷市阿知町 TEL 126</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|



### 1958年度採集会について

今年は5つの採集会が予定されていましたが結局、2つの会が実を結び、残りの3つは流産しました。

### ☆ 新見市西川流域採集会 ☆

1958年5月25日(日) 青野孝昭、安東瑞夫、小野洋、風早知之、河辺誠一郎、古屋野寛、近藤光宏、近藤一夫、前田喜四郎の諸氏の参加があり、一行は伯備線、備中神代駅を8時前に出発、布原駅付近から西川に沿って南下、石蟹に達して16時22分発の岡山行列車で帰途についた。この日、朝のうちは天気と思われなかったが次第に晴れて、絶好の採集日和となった。際では予想されていたウスバシロチョウをはじめ、アサギマダラ、アオバセセリ、トラフシジミ、サカヘチチョウ等が出現して、新緑の阿哲咲を色どつた。植物の生態写真を撮りまくつた古屋野氏が異彩をそえていた外、各氏共ネットを振り廻し、多くの知見と標本を得て楽しく採集会を終えた。

### ☆ 道後山採集会 ☆

1958年8月18日(月)、19日(火)  
青野孝昭、小野洋、風早知之、河辺誠一郎、中

原寿喜大、若林正史の諸氏が参加、1日目は悪天候の為、採集らしい採集は出来ず、殆んど国鉄山の家で閉らんの時を過ごすこととなった。テレビ、若林氏のフルート、コーラス、トランプ等々。2日目はガスをつけて登頂、午後は採集派と帰宅派に別れて別行動をとつた。採集派は道後山登山口から道後山駅に至る絶好のコースを歩いてゴマンシジミ、オオヒカゲ、スジグロチヤパネセセリ、ゴイシジミ等を収獲、帰宅派は一気にバスで下山してはやばやと汽車に乗り、いずれも心豊かに帰途についた。

### 編集後記

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

秋冷の候となり昆虫のシーズンも終りに近くなりました。何時もながら発行が大変遅れ申し訳ありません。

さて本号から数号に亘つて岡山清心大学の佐藤清明先生にお願いして寄せて頂いた伯耆大山の昆虫相を連載致します。大山方面に採集に出掛けられる方には参考になる事も多々あると思います。その他本号は青野氏の活躍が目立ちますがおとしぶみ記事の少ないのはさびしい感じがします。

本年も余すところわずか二カ月となりましたので本号に引続き3、4号を出す予定にしております。採集メモ、おとしぶみ等何んでも結構ですから夏の成果をどしどしお寄せ下さい。感冒の流行期に入ります。ビタミンAを十分取つて風邪をひかぬ様に。(T)

|      |                      |             |    |
|------|----------------------|-------------|----|
| すずむし | 才8巻才2号               | 昭和33年11月15日 | 印刷 |
|      |                      | 昭和33年11月20日 | 発行 |
| 編集兼  | 岡山大学大原農業生物研究所        |             |    |
| 発行者  | 曹虫部才2研究室内<br>倉敷昆虫同好会 |             |    |
| 印刷所  | 岡山市内UF3005 鳥城軽印刷     |             |    |